

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	尹 寛子					科目ナンバ-	Z31040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	他者との円滑な関係を築くためにはどうすれば良いのか、人間関係を構築する際に必要なコミュニケーションにおいて望まれる考え方や行動を学ぶ。						
授業の概要	「文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーション」という観点から「異文化コミュニケーション」に関する研究や理論を紹介し、他者とコミュニケーションを取る場面で基本となる考え方の導入を図る。さらにそれらを実際の状況に当てはめてふさわしい判断をし、行動できる力を養うため、様々な事例を見ながらグループ（ペア）ワークを行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>異文化コミュニケーション研究における基本的な考え方を理解し、それらを自身の経験や実際の状況に当てはめて考えることができる。（知識・理解）</li> <li>状況にふさわしい判断と態度でコミュニケーションを取ることができる。（汎用的技能）</li> <li>他者を多角的な視点から捉え、理解することができる。（態度・志向性）</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>「コミュニケーション」に対するイメージ</li> <li>異文化コミュニケーションの基礎概念（ペアワーク）</li> <li>自己とアイデンティティ</li> <li>コミュニケーションの阻害要因</li> <li>コミュニケーションの阻害要因を減らすためにできること</li> <li>応用（1）事例から考える①（グループワーク）</li> <li>文化的価値観と思考パターン（ペアワーク）</li> <li>カルチャーショックと適応のプロセス</li> <li>メッセージを伝える（1）言語コミュニケーション（ペアワーク）</li> <li>メッセージを伝える（2）非言語コミュニケーション（グループワーク）</li> <li>「聴く」技術（ペアワーク）</li> <li>対人コミュニケーション</li> <li>応用（2）事例から考える②（グループワーク）</li> <li>応用（3）自身の経験を振り返る</li> <li>授業内容のまとめと期末試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習しておく。（学習時間：2時間）</li> <li>授業後学習：授業内で取り上げられたキーワードの解説や要点を確認・整理し、テーマに対する理解と考察を深める。確認テストで理解度を確認する。（学習時間：2時間）</li> </ul>						
授業方法	講義の後には適宜ペアワークやグループワークなど、ディスカッションの時間を設け、学んだことを基に自らが考え、行動できる判断力を養えるよう、講義と演習を並行した授業を行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業態度 30%、小テスト（確認テスト） 10%、期末試験 60%</p> <p>授業態度：授業態度では、グループ（ペア）ワークへの参加度、各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容・記述的的確さなどを含め、総合的に評価する（到達目標1、2の確認）。</p> <p>期末試験：授業で扱った「異文化コミュニケーション」の考え方に対する理解度、学んだことを実践的に活用できる力について評価する。（到達度1、2、3の確認）</p>						
履修上の注意	授業に参加する前に、教科書の当該箇所を読んで予習しておくこと。						
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著、有斐閣選書（2019年）ISBN978-4-641-28133-2						

参考書	授業内で適宜紹介します。
-----	--------------

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	尹 寛子					科目ナンバ-	Z31040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	他者との円滑な関係を築くためにはどうすれば良いのか、人間関係を構築する際に必要なコミュニケーションにおいて望まれる考え方や行動を学ぶ。						
授業の概要	「文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーション」という観点から「異文化コミュニケーション」に関する研究や理論を紹介し、他者とコミュニケーションを取る場面で基本となる考え方の導入を図る。さらにそれらを実際の状況に当てはめてふさわしい判断をし、行動できる力を養うため、様々な事例を見ながらグループ（ペア）ワークを行う。						
到達目標	1. 異文化コミュニケーション研究における基本的な考え方を理解し、それらを自身の経験や実際の状況に当てはめて考えることができる。（知識・理解） 2. 状況にふさわしい判断と態度でコミュニケーションを取るができる。（汎用的技能） 3. 他者を多角的な視点から捉え、理解することができる。（態度・志向性）						
授業計画	① 「コミュニケーション」に対するイメージ ② 異文化コミュニケーションの基礎概念（ペアワーク） ③ 自己とアイデンティティ ④ コミュニケーションの阻害要因 ⑤ コミュニケーションの阻害要因を減らすためにできること ⑥ 応用（1） 事例から考える①（グループワーク） ⑦ 文化的価値観と思考パターン（ペアワーク） ⑧ カルチャーショックと適応のプロセス ⑨ メッセージを伝える（1） 言語コミュニケーション（ペアワーク） ⑩ メッセージを伝える（2） 非言語コミュニケーション（グループワーク） ⑪ 「聴く」技術（ペアワーク） ⑫ 対人コミュニケーション ⑬ 応用（2） 事例から考える②（グループワーク） ⑭ 応用（3） 自身の経験を振り返る ⑮ 授業内容のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習しておく。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で取り上げられたキーワードの解説や要点を確認・整理し、テーマに対する理解と考察を深める。確認テストで理解度を確認する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義の後には適宜ペアワークやグループワークなど、ディスカッションの時間を設け、学んだことを基に自らが考え、行動できる判断力を養えるよう、講義と演習を並行した授業を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度 30%、小テスト（確認テスト） 10%、期末試験 60% 授業態度：授業態度では、グループ（ペア）ワークへの参加度、各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容・記述の的確さなどを含め、総合的に評価する。（到達目標1、2の確認） 期末試験：授業で扱った「異文化コミュニケーション」の考え方に対する理解度、学んだことを実践的に活用できる力について評価する。（到達度1、2、3の確認）						
履修上の注意	授業に参加する前に、教科書の当該箇所を読んで予習しておくこと。						
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著、有斐閣選書（2019年）ISBN978-4-641-28133-2						

参考書	授業内で適宜紹介します。
-----	--------------

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	尹 寛子					科目ナンバ-	Z31040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	他者との円滑な関係を築くためにはどうすれば良いのか、人間関係を構築する際に必要なコミュニケーションにおいて望まれる考え方や行動を学ぶ。						
授業の概要	「文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーション」という観点から「異文化コミュニケーション」に関する研究や理論を紹介し、他者とコミュニケーションを取る場面で基本となる考え方の導入を図る。さらにそれらを実際の状況に当てはめてふさわしい判断をし、行動できる力を養うため、様々な事例を見ながらグループ（ペア）ワークを行う。						
到達目標	1. 異文化コミュニケーション研究における基本的な考え方を理解し、それらを自身の経験や実際の状況に当てはめて考えることができる。（知識・理解） 2. 状況にふさわしい判断と態度でコミュニケーションを取るができる。（汎用的技能） 3. 他者を多角的な視点から捉え、理解することができる。（態度・志向性）						
授業計画	① 「コミュニケーション」に対するイメージ ② 異文化コミュニケーションの基礎概念（ペアワーク） ③ 自己とアイデンティティ ④ コミュニケーションの阻害要因 ⑤ コミュニケーションの阻害要因を減らすためにできること ⑥ 応用（1） 事例から考える①（グループワーク） ⑦ 文化的価値観と思考パターン（ペアワーク） ⑧ カルチャーショックと適応のプロセス ⑨ メッセージを伝える（1） 言語コミュニケーション（ペアワーク） ⑩ メッセージを伝える（2） 非言語コミュニケーション（グループワーク） ⑪ 「聴く」技術（ペアワーク） ⑫ 対人コミュニケーション ⑬ 応用（2） 事例から考える②（グループワーク） ⑭ 応用（3） 自身の経験を振り返る ⑮ 授業内容のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習しておく。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で取り上げられたキーワードの解説や要点を確認・整理し、テーマに対する理解と考察を深める。確認テストで理解度を確認する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義の後には適宜ペアワークやグループワークなど、ディスカッションの時間を設け、学んだことを基に自らが考え、行動できる判断力を養えるよう、講義と演習を並行した授業を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度 30%、小テスト（確認テスト） 10%、期末試験 60% 授業態度：授業態度では、グループ（ペア）ワークへの参加度、各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容・記述的的確さなどを含め、総合的に評価する。（到達目標①②の確認） 期末試験：授業で扱った「異文化コミュニケーション」の考え方に対する理解度、学んだことを実践的に活用できる力について評価する。（到達度①②③の確認）						
履修上の注意	授業に参加する前に、教科書の当該箇所を読んで予習しておくこと。						
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著、有斐閣選書（2019年）ISBN978-4-641-28133-2						

参考書	授業内で適宜紹介します。
-----	--------------

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	尹 寛子					科目ナンバ-	Z31040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	他者との円滑な関係を築くためにはどうすれば良いのか、人間関係を構築する際に必要なコミュニケーションにおいて望まれる考え方や行動を学ぶ。						
授業の概要	「文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーション」という観点から「異文化コミュニケーション」に関する研究や理論を紹介し、他者とコミュニケーションを取る場面で基本となる考え方の導入を図る。さらにそれらを実際の状況に当てはめてふさわしい判断をし、行動できる力を養うため、様々な事例を見ながらグループ（ペア）ワークを行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異文化コミュニケーション研究における基本的な考え方を理解し、それらを自身の経験や実際の状況に当てはめて考えることができる。（知識・理解）</li> <li>2. 状況にふさわしい判断と態度でコミュニケーションを取ることができる。（汎用的技能）</li> <li>3. 他者を多角的な視点から捉え、理解することができる。（態度・志向性）</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「コミュニケーション」に対するイメージ</li> <li>② 異文化コミュニケーションの基礎概念（ペアワーク）</li> <li>③ 自己とアイデンティティ</li> <li>④ コミュニケーションの阻害要因</li> <li>⑤ コミュニケーションの阻害要因を減らすためにできること</li> <li>⑥ 応用（1） 事例から考える①（グループワーク）</li> <li>⑦ 文化的価値観と思考パターン（ペアワーク）</li> <li>⑧ カルチャーショックと適応のプロセス</li> <li>⑨ メッセージを伝える（1） 言語コミュニケーション（ペアワーク）</li> <li>⑩ メッセージを伝える（2） 非言語コミュニケーション（グループワーク）</li> <li>⑪ 「聴く」技術（ペアワーク）</li> <li>⑫ 対人コミュニケーション</li> <li>⑬ 応用（2） 事例から考える②（グループワーク）</li> <li>⑭ 応用（3） 自身の経験を振り返る</li> <li>⑮ 授業内容のまとめと期末試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習しておく。（学習時間：2時間）</li> <li>・ 授業後学習：授業内で取り上げられたキーワードの解説や要点を確認・整理し、テーマに対する理解と考察を深める。確認テストで理解度を確認する。（学習時間：2時間）</li> </ul>						
授業方法	講義の後には適宜ペアワークやグループワークなど、ディスカッションの時間を設け、学んだことを基に自らが考え、行動できる判断力を養えるよう、講義と演習を並行した授業を行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業態度 30%、小テスト（確認テスト） 10%、期末試験 60%</p> <p>授業態度：授業態度では、グループ（ペア）ワークへの参加度、各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容・記述の的確さなどを含め、総合的に評価する。（到達目標1、2の確認）</p> <p>期末試験：授業で扱った「異文化コミュニケーション」の考え方に対する理解度、学んだことを実践的に活用できる力について評価する。（到達度1、2、3の確認）</p>						
履修上の注意	授業に参加する前に、教科書の当該箇所を読んで予習しておくこと。						
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著、有斐閣選書（2019年）ISBN978-4-641-28133-2						

参考書	授業内で適宜紹介します。
-----	--------------



科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	尹 寛子					科目ナンバ-	Z31040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	他者との円滑な関係を築くためにはどうすれば良いのか、人間関係を構築する際に必要なコミュニケーションにおいて望まれる考え方や行動を学ぶ。						
授業の概要	「文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーション」という観点から「異文化コミュニケーション」に関する研究や理論を紹介し、他者とコミュニケーションを取る場面で基本となる考え方の導入を図る。さらにそれらを実際の状況に当てはめてふさわしい判断をし、行動できる力を養うため、様々な事例を見ながらグループ（ペア）ワークを行う。						
到達目標	1. 異文化コミュニケーション研究における基本的な考え方を理解し、それらを自身の経験や実際の状況に当てはめて考えることができる。（知識・理解） 2. 状況にふさわしい判断と態度でコミュニケーションを取るができる。（汎用的技能） 3. 他者を多角的な視点から捉え、理解することができる。（態度・志向性）						
授業計画	① 「コミュニケーション」に対するイメージ ② 異文化コミュニケーションの基礎概念（ペアワーク） ③ 自己とアイデンティティ ④ コミュニケーションの阻害要因 ⑤ コミュニケーションの阻害要因を減らすためにできること ⑥ 応用（1） 事例から考える①（グループワーク） ⑦ 文化的価値観と思考パターン（ペアワーク） ⑧ カルチャーショックと適応のプロセス ⑨ メッセージを伝える（1） 言語コミュニケーション（ペアワーク） ⑩ メッセージを伝える（2） 非言語コミュニケーション（グループワーク） ⑪ 「聴く」技術（ペアワーク） ⑫ 対人コミュニケーション ⑬ 応用（2） 事例から考える②（グループワーク） ⑭ 応用（3） 自身の経験を振り返る ⑮ 授業内容のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習しておく。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で取り上げられたキーワードの解説や要点を確認・整理し、テーマに対する理解と考察を深める。確認テストで理解度を確認する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義の後には適宜ペアワークやグループワークなど、ディスカッションの時間を設け、学んだことを基に自らが考え、行動できる判断力を養えるよう、講義と演習を並行した授業を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度 30%、小テスト（確認テスト） 10%、期末試験 60% 授業態度：授業態度では、グループ（ペア）ワークへの参加度、各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容・記述的確さなどを含め、総合的に評価する。（到達目標1、2の確認） 期末試験：授業で扱った「異文化コミュニケーション」の考え方に対する理解度、学んだことを実践的に活用できる力について評価する。（到達目標1、2、3の確認）						
履修上の注意	授業に参加する前に、教科書の当該箇所を読んで予習しておくこと。						
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著、有斐閣選書（2019年）ISBN978-4-641-28133-2						

参考書	授業内で適宜紹介します。
-----	--------------

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	尹 寛子					科目ナンバ-	Z31040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	他者との円滑な関係を築くためにはどうすれば良いのか、人間関係を構築する際に必要なコミュニケーションにおいて望まれる考え方や行動を学ぶ。						
授業の概要	「文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーション」という観点から「異文化コミュニケーション」に関する研究や理論を紹介し、他者とコミュニケーションを取る場面で基本となる考え方の導入を図る。さらにそれらを実際の状況に当てはめてふさわしい判断をし、行動できる力を養うため、様々な事例を見ながらグループ（ペア）ワークを行う。						
到達目標	1. 異文化コミュニケーション研究における基本的な考え方を理解し、それらを自身の経験や実際の状況に当てはめて考えることができる。（知識・理解） 2. 状況にふさわしい判断と態度でコミュニケーションを取るができる。（汎用的技能） 3. 他者を多角的な視点から捉え、理解することができる。（態度・志向性）						
授業計画	① 「コミュニケーション」に対するイメージ ② 異文化コミュニケーションの基礎概念（ペアワーク） ③ 自己とアイデンティティ ④ コミュニケーションの阻害要因 ⑤ コミュニケーションの阻害要因を減らすためにできること ⑥ 応用（1） 事例から考える①（グループワーク） ⑦ 文化的価値観と思考パターン（ペアワーク） ⑧ カルチャーショックと適応のプロセス ⑨ メッセージを伝える（1） 言語コミュニケーション（ペアワーク） ⑩ メッセージを伝える（2） 非言語コミュニケーション（グループワーク） ⑪ 「聴く」技術（ペアワーク） ⑫ 対人コミュニケーション ⑬ 応用（2） 事例から考える②（グループワーク） ⑭ 応用（3） 自身の経験を振り返る ⑮ 授業内容のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習しておく。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で取り上げられたキーワードの解説や要点を確認・整理し、テーマに対する理解と考察を深める。確認テストで理解度を確認する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義の後には適宜ペアワークやグループワークなど、ディスカッションの時間を設け、学んだことを基に自らが考え、行動できる判断力を養えるよう、講義と演習を並行した授業を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度 30%、小テスト（確認テスト） 10%、期末試験 60% 授業態度：授業態度では、グループ（ペア）ワークへの参加度、各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容・記述的的確さなどを含め、総合的に評価する。（到達目標①②の確認） 期末試験：授業で扱った「異文化コミュニケーション」の考え方に対する理解度、学んだことを実践的に活用できる力について評価する。（到達度①②③の確認）						
履修上の注意	授業に参加する前に、教科書の当該箇所を読んで予習しておくこと。						
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著、有斐閣選書（2019年）ISBN978-4-641-28133-2						

参考書	授業内で適宜紹介します。
-----	--------------

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ-	Z32020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」とか、「どうしてわかってくれないんだろう。」と感じたことはないだろうか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかを考え、より良い話し方を身につける。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことを意識して話せばいいかを考える。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をする。自分の話し手としての態度や、聴き手としての姿勢がどのように変化したのかは、毎回の授業で行う振り返りで知ることができる。15回の授業で、話し上手な女性を目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションが社会の中でどのように展開されているかを知る〈知識・理解〉</li> <li>・現在の自分のコミュニケーション能力を意識し、さらなる向上を目指す〈態度・志向性〉</li> <li>・円滑なコミュニケーションのために必要な能力（発話・傾聴・柔軟性など）を身につける〈汎用的技能〉</li> </ul>						
授業計画	第1回 コミュニケーションとは？ 第2回 自分のコミュニケーションの機会について考えよう 第3回 自己紹介：自己紹介の目的を考えて、自己紹介をする（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方を分析する 第5回 アサーティブコミュニケーション 1 アサーティブコミュニケーションについて知る 第6回 アサーティブコミュニケーション 2 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（伝える） 第7回 アサーティブコミュニケーション 3 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（聴く） 第8回 外国人とのコミュニケーション 第9回 ちょっといい話（個別発表2） 第10回 正しい日本語とは？（1）巻で耳にする変な日本語 第11回 正しい日本語とは？（2）敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について（個別発表4） 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く。）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業の最後に、次回の授業で活用する課題を出す。（2時間程度の課題） 授業後学習：①毎回の授業の最後に、その日の授業内容と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出する。（記入時間は10分ほど。）②授業で学んだことを批判的にとらえ、次回までに質問を3つ考えてくる。（2時間程度）						
授業方法	「知識を得る」のではなく「考える」ことを重視するため、グループワークを中心に授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表30%、「振り返りシート」の提出と授業態度30%、最終日の自己評価書40%						
履修上の注意	1. 話すのが苦手な人、ぜひ受講してください。みんなでゆっくり練習しましょう。 2. 実践的な授業です。自分で考えて行動する能動的な態度で受講してください。 3. 履修者25名以内 4. 履修上の注意 グループワークやペアワークを行いますので、欠席の場合は必ず事前に連絡してください。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書	なし						
参考書	授業で紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ-	Z32020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」とか、「どうしてわかってくれないんだろう。」と感じたことはないだろうか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかを考え、より良い話し方を身につける。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことを意識して話せばいいかを考える。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をする。自分の話し手としての態度や、聴き手としての姿勢がどのように変化したのかは、毎回の授業で行う振り返りで知ることができる。15回の授業で、話し上手な女性を目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションが社会の中でどのように展開されているかを知る〈知識・理解〉</li> <li>・現在の自分のコミュニケーション能力を意識し、さらなる向上を目指す〈態度・志向性〉</li> <li>・円滑なコミュニケーションのために必要な能力（発話・傾聴・柔軟性など）を身につける〈汎用的技能〉</li> </ul>						
授業計画	第1回 コミュニケーションとは？ 第2回 自分のコミュニケーションの機会について考えよう 第3回 自己紹介：自己紹介の目的を考えて、自己紹介をする（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方を分析する 第5回 アサーティブコミュニケーション 1 アサーティブコミュニケーションについて知る 第6回 アサーティブコミュニケーション 2 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（伝える） 第7回 アサーティブコミュニケーション 3 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（聴く） 第8回 外国人とのコミュニケーション 第9回 ちょっといい話（個別発表2） 第10回 正しい日本語とは？（1）巻で耳にする変な日本語 第11回 正しい日本語とは？（2）敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について（個別発表4） 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く。）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業の最後に、次回の授業で活用する課題を出す。（2時間程度の課題） 授業後学習：①毎回の授業の最後に、その日の授業内容と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出する。（記入時間は10分ほど。）②授業で学んだことを批判的にとらえ、次回までに質問を3つ考えてくる。（2時間程度）						
授業方法	「知識を得る」のではなく「考える」ことを重視するため、グループワークを中心に授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表30%、「振り返りシート」の提出と授業態度30%、最終日の自己評価書40%						
履修上の注意	1. 話すのが苦手な人、ぜひ受講してください。みんなでゆっくり練習しましょう。 2. 実践的な授業です。自分で考えて行動する能動的な態度で受講してください。 3. 履修者25名以内 4. 履修上の注意 グループワークやペアワークを行いますので、欠席の場合は必ず事前に連絡してください。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書	なし						
参考書	授業で紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ-	Z32020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」とか、「どうしてわかってくれないんだろう。」と感じたことはないだろうか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかを考え、より良い話し方を身につける。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことを意識して話せばいいかを考える。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をする。自分の話し手としての態度や、聴き手としての姿勢がどのように変化したのかは、毎回の授業で行う振り返りで知ることができる。15回の授業で、話し上手な女性を目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションが社会の中でどのように展開されているかを知る〈知識・理解〉</li> <li>・現在の自分のコミュニケーション能力を意識し、さらなる向上を目指す〈態度・志向性〉</li> <li>・円滑なコミュニケーションのために必要な能力（発話・傾聴・柔軟性など）を身につける〈汎用的技能〉</li> </ul>						
授業計画	第1回 コミュニケーションとは？ 第2回 自分のコミュニケーションの機会について考えよう 第3回 自己紹介：自己紹介の目的を考えて、自己紹介をする（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方を分析する 第5回 アサーティブコミュニケーション 1 アサーティブコミュニケーションについて知る 第6回 アサーティブコミュニケーション 2 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（伝える） 第7回 アサーティブコミュニケーション 3 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（聴く） 第8回 外国人とのコミュニケーション 第9回 ちょっといい話（個別発表2） 第10回 正しい日本語とは？（1）巻で耳にする変な日本語 第11回 正しい日本語とは？（2）敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について（個別発表4） 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く。）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業の最後に、次回の授業で活用する課題を出す。（2時間程度の課題） 授業後学習：①毎回の授業の最後に、その日の授業内容と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出する。（記入時間は10分ほど。）②授業で学んだことを批判的にとらえ、次回までに質問を3つ考えてくる。（2時間程度）						
授業方法	「知識を得る」のではなく「考える」ことを重視するため、グループワークを中心に授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表30%、「振り返りシート」の提出と授業態度30%、最終日の自己評価書40%						
履修上の注意	1. 話すのが苦手な人、ぜひ受講してください。みんなでゆっくり練習しましょう。 2. 実践的な授業です。自分で考えて行動する能動的な態度で受講してください。 3. 履修者25名以内 4. 履修上の注意 グループワークやペアワークを行いますので、欠席の場合は必ず事前に連絡してください。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書	なし						
参考書	授業で紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ-	Z32020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」とか、「どうしてわかってくれないんだろう。」と感じたことはないだろうか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかを考え、より良い話し方を身につける。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことを意識して話せばいいかを考える。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をする。自分の話し手としての態度や、聴き手としての姿勢がどのように変化したのかは、毎回の授業で行う振り返りで知ることができる。15回の授業で、話し上手な女性を目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションが社会の中でどのように展開されているかを知る〈知識・理解〉</li> <li>・現在の自分のコミュニケーション能力を意識し、さらなる向上を目指す〈態度・志向性〉</li> <li>・円滑なコミュニケーションのために必要な能力（発話・傾聴・柔軟性など）を身につける〈汎用的技能〉</li> </ul>						
授業計画	第1回 コミュニケーションとは？ 第2回 自分のコミュニケーションの機会について考えよう 第3回 自己紹介：自己紹介の目的を考えて、自己紹介をする（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方を分析する 第5回 アサーティブコミュニケーション 1 アサーティブコミュニケーションについて知る 第6回 アサーティブコミュニケーション 2 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（伝える） 第7回 アサーティブコミュニケーション 3 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（聴く） 第8回 外国人とのコミュニケーション 第9回 ちょっといい話（個別発表2） 第10回 正しい日本語とは？（1）巻で耳にする変な日本語 第11回 正しい日本語とは？（2）敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について（個別発表4） 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く。）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業の最後に、次回の授業で活用する課題を出す。（2時間程度の課題） 授業後学習：①毎回の授業の最後に、その日の授業内容と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出する。（記入時間は10分ほど。）②授業で学んだことを批判的にとらえ、次回までに質問を3つ考えてくる。（2時間程度）						
授業方法	「知識を得る」のではなく「考える」ことを重視するため、グループワークを中心に授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表30%、「振り返りシート」の提出と授業態度30%、最終日の自己評価書40%						
履修上の注意	1. 話すのが苦手な人、ぜひ受講してください。みんなでゆっくり練習しましょう。 2. 実践的な授業です。自分で考えて行動する能動的な態度で受講してください。 3. 履修者25名以内 4. 履修上の注意 グループワークやペアワークを行いますので、欠席の場合は必ず事前に連絡してください。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書	なし						
参考書	授業で紹介する。						



科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	島津 浩美					科目ナンバ-	Z32020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」とか、「どうしてわかってくれないんだろう。」と感じたことはないだろうか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかを考え、より良い話し方を身につける。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことを意識して話せばいいのかを考える。次に、さまざまな場面を想定して、実際にどのように言えばいいのか考え、それを言ったとき、聞き手としてどのように感じるかを考える。自分の話し手としての態度や、聴き手としての姿勢がどのように変化したのかは、毎回の授業で行う振り返りで知ることができる。15回の授業で、話し上手な女性を目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションが社会の中でどのように展開されているかを知る【知識・理解】</li> <li>・現在の自分のコミュニケーション能力を意識し、さらなる向上を目指す【態度・志向性】</li> <li>・円滑なコミュニケーションのために必要な能力（発話・傾聴・柔軟性など）を身につける【汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 コミュニケーションとは？ 第2回 自分のコミュニケーションについて考えよう 自己紹介：自己紹介の目的を考えて、自己紹介をする（個別発表1） 第3回 アサーティブコミュニケーション 1 アサーティブコミュニケーションについて知る 第4回 アサーティブコミュニケーション 2 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（伝える） 第5回 アサーティブコミュニケーション 3 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（聴く） 第6回 ちょっとした話（個別発表2） 第7回 考えてみよう①「お願いする」 第8回 考えてみよう②「断る」 第9回 考えてみよう③「話を聞いて、会話を続ける」 第10回 考えてみよう④「提案する・説明する」 第11回 不思議な日本語 第12回 敬語のはなし 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について 第15回 授業全体の振り返り： ①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：毎回の授業の最後に、次回の授業内容に関する課題を出すので、準備してくる。（2時間程度の課題） 授業後学習：①毎回の授業の最後に、その日の授業内容と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出する。（記入時間：10分程度。） ②授業で得た知識を実際の自分の言語行動に取り入れ、自分の言語行動の変化やコミュニケーションにおける変化などについてまとめておく。（2時間程度の課題）						
授業方法	「考えて話す」ことを意識するために、グループワークを中心に授業を行う。またグループワークは、自分の意見を発信する練習と、人の意見を聴く練習も兼ねる。大勢の前での発表に慣れるために、個別発表も行う。						
評価基準と評価方法	授業中の発表30%、「振り返りシート」の提出と授業態度30%、最終日の自己評価書40%						
履修上の注意	1. 人前で話すのが苦手な人、少しずつ練習して、話すことに慣れましょう。 2. 実践的な授業です。自分で考えて行動する能動的な態度で受講してください。 3. 25名以内 4. 履修上の注意：10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書	なし						
参考書	授業で紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつけること。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。 具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。 また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。【汎用的技能】 (4) 「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。【汎用的技能】 (5) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール(1)情報を知らせる 第5回 メール(2)依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト(1) 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト(2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。(2時間) ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍(分野は問わない)を読む。(2時間)						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。 毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。 <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト(2回)50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 (テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。)						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜レジュメを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつけること。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。 具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。 また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1)考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2)誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3)基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。【汎用的技能】 (4)「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。【汎用的技能】 (5)レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール(1)情報を知らせる 第5回 メール(2)依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト(1) 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト(2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。(2時間) ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍(分野は問わない)を読む。(2時間)						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。 毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。 <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト(2回)50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 (テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。)						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜レジュメを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつけること。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。 具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。 また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。【汎用的技能】 (4) 「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。【汎用的技能】 (5) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール(1) 情報を知らせる 第5回 メール(2) 依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト(1) 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト(2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。(2時間) ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍(分野は問わない)を読む。(2時間)						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。 毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。 <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト(2回)50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 (テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。)						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜レジュメを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	岡崎 昌宏					科目ナンバ	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。「伝わる文章A」では、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、大学生活に必要な基礎的な知識を学びます。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、実際に文章を作成します。より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】</li> <li>・誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。【汎用的技能】</li> <li>・基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。【汎用的技能】</li> <li>・「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。【汎用的技能】</li> <li>・レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール（1）情報を知らせる 第5回 メール（2）依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文章力は知識が必要な面もありますが、基本的にはトレーニングが必要な技術です。授業で扱ったことを反復練習することで初めて、実際のコミュニケーションで使える文章力を身につけることができます。また、自分が読んだことがない文章を書くことはできません。きちんと構造化された、フォーマルな文章を読む時間を確保することも重要です。そのために、授業で練習した課題及び持ち帰りの課題で1時間程度、また、構造化された文章に慣れるために、自分の興味のある分野の書籍（文庫、新書など）を毎日30～60分程度習慣化して読むことを強く勧めます。毎週合計4時間の学習が必要です。						
授業方法	講義・演習の両方のスタイルで、グループワーク・ペアワークを取り入れ、毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。</li> <li>・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。</li> <li>・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。（テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須です。ただそこにいることを「出席」とはみなしません。</li> <li>・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としません。また、正当な理由のない遅刻は認めません。</li> <li>・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処します。</li> </ul>						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	岡崎 昌宏					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。「伝わる文章A」では、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、大学生生活に必要な基礎的な知識を学びます。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、実際に文章を作成します。より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】</li> <li>・誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。【汎用的技能】</li> <li>・基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。【汎用的技能】</li> <li>・「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。【汎用的技能】</li> <li>・レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール（1）情報を知らせる 第5回 メール（2）依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文章力は知識が必要な面もありますが、基本的にはトレーニングが必要な技術です。授業で扱ったことを反復練習することで初めて、実際のコミュニケーションで使える文章力を身につけることができます。また、自分が読んだことがない文章を書くことはできません。きちんと構造化された、フォーマルな文章を読む時間を確保することも重要です。そのために、授業で練習した課題及び持ち帰りの課題で1時間程度、また、構造化された文章に慣れるために、自分の興味のある分野の書籍（文庫、新書など）を毎日30～60分程度習慣化して読むことを強く勧めます。毎週合計4時間の学習が必要です。						
授業方法	講義・演習の両方のスタイルで、グループワーク・ペアワークを取り入れ、毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。</li> <li>・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。</li> <li>・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。（テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須です。ただそこにいることを「出席」とはみなしません。</li> <li>・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としません。また、正当な理由のない遅刻は認めません。</li> <li>・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処します。</li> </ul>						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。【汎用的技能】 (4) 「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。【汎用的技能】 (5) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール（1）情報を知らせる 第5回 メール（2）依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1) (4)、授業回に応じて(2) (3) (5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1) (4) (5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。【汎用的技能】 (4) 「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。【汎用的技能】 (5) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール（1）情報を知らせる 第5回 メール（2）依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1) (4)、授業回に応じて(2) (3) (5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1) (4) (5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						



科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	岡村 裕美					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。【汎用的技能】 (4) 「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。【汎用的技能】 (5) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール（1）情報を知らせる 第5回 メール（2）依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会、簡単なプレゼンテーションの機会も数回設ける。						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1) (4)、授業回に応じて(2) (3) (5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1) (4) (5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	なし（適宜プリントを使用）。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	瀬戸 祐規					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる【汎用的技能】 (2) 誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる【汎用的技能】 (3) 基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える【汎用的技能】 (4) 「何を書くか」だけではなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる【汎用的技能】 (5) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール（1）情報を知らせる 第5回 メール（2）依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメント時の観点に対する的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	瀬戸 祐規					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる【汎用的技能】 (2) 誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる【汎用的技能】 (3) 基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える【汎用的技能】 (4) 「何を書くか」だけではなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる【汎用的技能】 (5) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール（1）情報を知らせる 第5回 メール（2）依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメント時の観点に対する的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	糠野 永未子					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身に付ける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協働作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がこういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、様々な状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。【汎用的技能】 (4) 「何を書くか」だけではなく、「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。【汎用的機能】 (5) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール（1）情報を知らせる 第5回 メール（2）依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出、フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。 到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの観点の的確さを評価する。 到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。 1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 (テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。)						
履修上の注意	・グループワークや授業中の作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合は最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章I／伝わる文章A						
担当教員	糠野 永未子					科目ナンバ-	Z31010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身に付ける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協働作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、様々な状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。【汎用的技能】 (4) 「何を書くか」だけではなく、「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。【汎用的機能】 (5) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール（1）情報を知らせる 第5回 メール（2）依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出、フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。 到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの観点の的確さを評価する。 到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。 1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中の作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合は最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章II／伝わる文章B						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバ-	Z31020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつけること。						
授業の概要	必要な情報を、主観と客観を区別し、適切な表現と方法で伝える方法を学ぶ。何かを紹介したり説明したりする文章やアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）で、事実と意見を書き分けることの必要性を確認し、実際に文章を作成する。また、図表を適切に使用するためのルールや、資料を引用する際のルールを確認し、事実・情報に基づいて論理的に文章を書くための能力の向上を目指す。必要に応じてグループやペアで文章作成の作業をし、互いの書いたものを読み合う機会を設けることで、「伝わる文章」がどういったものかを判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝える文章表現ができる。【汎用的技能】 (3) レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。【汎用的技能】 (4) 主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。【汎用的技能】 (5) 根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章(1) 主観と客観 第4回 紹介の文章(2) 物語の紹介 第5回 紹介の文章(3) 書評を書く 第6回 説明の文章(1) 手順や道順 第7回 説明の文章(2) 図を使う 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト(1) 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張/(1) 読解 第12回 事実に基づいた主張/(2) 意見を書く 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト(2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。（2時間） ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。（2時間）						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。<BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト(2回)50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。（テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜レジュメを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章II／伝わる文章B						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバ-	Z31020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつけること。						
授業の概要	必要な情報を、主観と客観を区別し、適切な表現と方法で伝える方法を学ぶ。何かを紹介したり説明したりする文章やアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）で、事実と意見を書き分けることの必要性を確認し、実際に文章を作成する。また、図表を適切に使用するためのルールや、資料を引用する際のルールを確認し、事実・情報に基づいて論理的に文章を書くための能力の向上を目指す。必要に応じてグループやペアで文章作成の作業をし、互いの書いたものを読み合う機会を設けることで、「伝わる文章」がどういったものかを判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝える文章表現ができる。【汎用的技能】 (3) レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。【汎用的技能】 (4) 主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。【汎用的技能】 (5) 根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章(1) 主観と客観 第4回 紹介の文章(2) 物語の紹介 第5回 紹介の文章(3) 書評を書く 第6回 説明の文章(1) 手順や道順 第7回 説明の文章(2) 図を使う 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト(1) 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張/(1) 読解 第12回 事実に基づいた主張/(2) 意見を書く 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト(2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。（2時間） ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。（2時間）						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。 毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。 <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト(2回)50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 (テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。)						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜レジュメを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章II／伝わる文章B						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバ-	Z31020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつけること。						
授業の概要	必要な情報を、主観と客観を区別し、適切な表現と方法で伝える方法を学ぶ。何かを紹介したり説明したりする文章やアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）で、事実と意見を書き分けることの必要性を確認し、実際に文章を作成する。また、図表を適切に使用するためのルールや、資料を引用する際のルールを確認し、事実・情報に基づいて論理的に文章を書くための能力の向上を目指す。必要に応じてグループやペアで文章作成の作業をし、互いの書いたものを読み合う機会を設けることで、「伝わる文章」がどういったものかを判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝える文章表現ができる。【汎用的技能】 (3) レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。【汎用的技能】 (4) 主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。【汎用的技能】 (5) 根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章(1) 主観と客観 第4回 紹介の文章(2) 物語の紹介 第5回 紹介の文章(3) 書評を書く 第6回 説明の文章(1) 手順や道順 第7回 説明の文章(2) 図を使う 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト(1) 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張/(1) 読解 第12回 事実に基づいた主張/(2) 意見を書く 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト(2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。（2時間） ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。（2時間）						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。 毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。 <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(4)、授業回に応じて(2)(3)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト(2回)50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜レジュメを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						



科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章Ⅱ／伝わる文章B						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	Z31020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	必要な情報を、主観と客観を区別し、適切な表現と方法で伝える方法を学ぶ。何かを紹介したり説明したりする文章やアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）で、事実と意見を書き分けることの必要性を確認し、実際に文章を作成する。また、図表を適切に使用するためのルールや、資料を引用する際のルールを確認し、事実・情報に基づいて論理的に文章を書くための能力の向上を目指す。必要に応じてグループやペアで文章作成の作業をし、互いの書いたものを読み合う機会を設けることで、「伝わる文章」がどういったものかを判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (3) レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。【汎用的技能】 (4) 主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。【汎用的技能】 (5) 根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章（1）主観と客観 第4回 紹介の文章（2）物語の紹介 第5回 紹介の文章（3）書評を書く 第6回 説明の文章（1）手順や道順 第7回 説明の文章（2）図を使う 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張／（1）読解 第12回 事実に基づいた主張／（2）意見を書く 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1) (2)、授業回に応じて(3) (4) (5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1) (2) (4)、2回目のテストでは(1)～(5)の到達度を確認する。 (テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。)						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章II／伝わる文章B						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	Z31020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	必要な情報を、主観と客観を区別し、適切な表現と方法で伝える方法を学ぶ。何かを紹介したり説明したりする文章やアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）で、事実と意見を書き分けることの必要性を確認し、実際に文章を作成する。また、図表を適切に使用するためのルールや、資料を引用する際のルールを確認し、事実・情報に基づいて論理的に文章を書くための能力の向上を目指す。必要に応じてグループやペアで文章作成の作業をし、互いの書いたものを読み合う機会を設けることで、「伝わる文章」がどういったものかを判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (3) レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。【汎用的技能】 (4) 主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。【汎用的技能】 (5) 根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章（1）主観と客観 第4回 紹介の文章（2）物語の紹介 第5回 紹介の文章（3）書評を書く 第6回 説明の文章（1）手順や道順 第7回 説明の文章（2）図を使う 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張／（1）読解 第12回 事実に基づいた主張／（2）意見を書く 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(2)、授業回に応じて(3)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)(2)(4)、2回目のテストでは(1)～(5)の到達度を確認する。 (テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。)						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章II／伝わる文章B						
担当教員	岡村 裕美					科目ナンバ-	Z31020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	必要な情報を、主観と客観を区別し、適切な表現と方法で伝える方法を学ぶ。何かを紹介したり説明したりする文章やアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）で、事実と意見を書き分けることの必要性を確認し、実際に文章を作成する。また、図表を適切に使用するためのルールや、資料を引用する際のルールを確認し、事実・情報に基づいて論理的に文章を書くための能力の向上を目指す。必要に応じてグループやペアで文章作成の作業をし、互いの書いたものを読み合う機会を設けることで、「伝わる文章」がどういったものかを判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (3) レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。【汎用的技能】 (4) 主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。【汎用的技能】 (5) 根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章（1）主観と客観 第4回 紹介の文章（2）物語の紹介 第5回 紹介の文章（3）書評を書く 第6回 説明の文章（1）手順や道順 第7回 説明の文章（2）図を使う 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張（1）論拠 第12回 事実に基づいた主張（2）複数の論拠 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会や、簡単なプレゼンテーションの機会も設ける。						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(2)、授業回に応じて(3)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点を的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)(2)(4)、2回目のテストでは(1)～(5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	なし（適宜プリントを使用）。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章II／伝わる文章B						
担当教員	瀬戸 祐規					科目ナンバ-	Z31020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	必要な情報を、主観と客観を区別し、適切な表現と方法で伝える方法を学ぶ。何かを紹介したり説明したりする文章やアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）で、事実と意見を書き分けることの必要性を確認し、実際に文章を作成する。また、図表を適切に使用するためのルールや、資料を引用する際のルールを確認し、事実・情報に基づいて論理的に文章を書くための能力の向上を目指す。必要に応じてグループやペアで文章作成の作業をし、互いの書いたものを読み合う機会を設けることで、「伝わる文章」がどういったものかを判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる【汎用的技能】 (2) 文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる【汎用的技能】 (3) レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる【汎用的技能】 (4) 主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる【汎用的技能】 (5) 根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章（1）主観と客観 第4回 紹介の文章（2）物語の紹介 第5回 紹介の文章（3）書評を書く 第6回 説明の文章（1）手順や道順 第7回 説明の文章（2）図を使う 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 構成と章立てを考えて書く 第12回 事実に基づいた主張／（1）読解 第13回 事実に基づいた主張／（2）意見を書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(2)、授業回に応じて(3)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメント時の観点に対する的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)(2)(4)、2回目のテストでは(1)～(5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章II／伝わる文章B						
担当教員	瀬戸 祐規					科目ナンバ-	Z31020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	必要な情報を、主観と客観を区別し、適切な表現と方法で伝える方法を学ぶ。何かを紹介したり説明したりする文章やアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）で、事実と意見を書き分けることの必要性を確認し、実際に文章を作成する。また、図表を適切に使用するためのルールや、資料を引用する際のルールを確認し、事実・情報に基づいて論理的に文章を書くための能力の向上を目指す。必要に応じてグループやペアで文章作成の作業をし、互いの書いたものを読み合う機会を設けることで、「伝わる文章」がどういったものかを判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる【汎用的技能】 (2) 文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝える文章表現ができる【汎用的技能】 (3) レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる【汎用的技能】 (4) 主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる【汎用的技能】 (5) 根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章（1）主観と客観 第4回 紹介の文章（2）物語の紹介 第5回 紹介の文章（3）書評を書く 第6回 説明の文章（1）手順や道順 第7回 説明の文章（2）図を使う 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 構成と章立てを考えて書く 第12回 事実に基づいた主張／（1）読解 第13回 事実に基づいた主張／（2）意見を書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(2)、授業回に応じて(3)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメント時の観点に対する的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)(2)(4)、2回目のテストでは(1)～(5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章II／伝わる文章B						
担当教員	糠野 永未子					科目ナンバ-	Z31020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身に付ける。						
授業の概要	必要な情報の主観と客観を区別し、適切な表現で伝える方法を学ぶ。何かを紹介したり説明したりする文章やアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）で、事実と意見を書き分けることの必要性を確認し、実際に文章を作成する。また、図表を適切に使用するためのルールや資料を引用する際のルールを確認し、事実・情報に基づいて論理的に文章を書くための能力向上を目指す。必要に応じてグループやペアで文章を作成し、互いの書いたものを読み合う機会を設けることで、「伝わる文章」がどういったものかを判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、様々な状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (3) レポートの文章がどのようなものかを理解し、望ましいものとそうでないものの区別ができる。【汎用的技能】 (4) 主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。【汎用的技能】 (5) 根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章（1）主観と客観 第4回 紹介の文章（2）物語の紹介 第5回 紹介の文章（3）書評を書く 第6回 説明の文章（1）手順や道順 第7回 説明の文章（2）図を使う 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張／（1）読解 第12回 事実に基づいた主張／（2）意見を書く 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出、フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。 到達目標の(1)(2)、授業回に応じて(3)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの観点の確かさを評価する。 到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。 1回目のテストでは到達目標の(1)(2)(4)、2回目のテストでは(1)～(5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中の作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合は最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章II／伝わる文章B						
担当教員	糠野 永未子					科目ナンバ	Z31020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身に付ける。						
授業の概要	必要な情報の主観と客観を区別し、適切な表現で伝える方法を学ぶ。何かを紹介したり説明したりする文章やアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）で、事実と意見を書き分けることの必要性を確認し、実際に文章を作成する。また、図表を適切に使用するためのルールや資料を引用する際のルールを確認し、事実・情報に基づいて論理的に文章を書くための能力向上を目指す。必要に応じてグループやペアで文章を作成し、互いの書いたものを読み合う機会を設けることで、「伝わる文章」がどういったものかを判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、様々な状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (3) レポートの文章がどのようなものかを理解し、望ましいものとそうでないものの区別ができる。【汎用的技能】 (4) 主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。【汎用的技能】 (5) 根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章（1）主観と客観 第4回 紹介の文章（2）物語の紹介 第5回 紹介の文章（3）書評を書く 第6回 説明の文章（1）手順や道順 第7回 説明の文章（2）図を使う 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張／（1）読解 第12回 事実に基づいた主張／（2）意見を書く 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出、フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。 到達目標の(1)(2)、授業回に応じて(3)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの観点の確かさを評価する。 到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（2回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。 1回目のテストでは到達目標の(1)(2)(4)、2回目のテストでは(1)～(5)の到達度を確認する。 (テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。)						
履修上の注意	・グループワークや授業中の作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合は最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	延原 由佳					科目ナンバ-	Z32040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ディベートという議論の方法を習得します。ディベートの実践を通じて、自身の考えを主張しつつ他者と議論を噛み合わせるために、いかに相手の主張に耳を傾けるか、その重要性を認識します。						
授業の概要	「人間は皆同じだ」と考えている人々の間で意見の対立が生じると、人は動揺し、その対立を異常事態として捉えてしまいます。一方で「人間は皆異なる」と考えている人々の間では、意見の対立が生じても、それは当然のことであり、その違いをどのように克服していくかに力が注がれます。ディベートは、対立する二種類の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者によって判定するスタイルのコミュニケーションです。ディベートの演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけ、説得力のアップを図ります。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 的確な日本語を用いて円滑なコミュニケーションを図ることができる。【態度・志向性】</li> <li>・ 相手が主張することを正確に理解し、自分の主張をわかりやすく自信をもって説明できる。【汎用的技能】</li> <li>・ 立場や意見の異なる相手とも論理的に議論できる。【態度・志向性】</li> <li>・ 入社試験や採用試験で取り上げられがちな様々なテーマについて、興味をもって論じることができる。【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション ディベートの重要性とデメリットを学び、ディベートの意義を理解する</li> <li>2. ディベート概要 ディベート試合の流れやディベートのルールを学び、コミュニケーションの重要性を理解する</li> <li>3. 立論構成 立論の組み立て、哲学の意義、データの収集と活用を学ぶ</li> <li>4. マイクロディベート演習 ディベート試合の流れと試合の目的を理解する</li> <li>5. 尋問・反駁 尋問・反駁の手法を学び、議論の流れにおける尋問・反駁の意義を理解する</li> <li>6. サッカーディベート演習 的確な質疑と応答のタイミングや方法について学ぶ</li> <li>7. 論理的な思考法 論理的思考力・批判的思考力を養うための考え方について学ぶ</li> <li>8. ショートディベート演習 論題の決定、試合準備、グループワーク</li> <li>9. ショートディベート演習 試合の流れ、参加方法を学ぶ</li> <li>10. ショートディベート演習 参加試合の振り返りを行い、審判について学ぶ</li> <li>11. プレゼンテーションとディベート ディベートにおけるプレゼンの効果について学ぶ</li> <li>12. ロングディベート演習 論題の決定、試合の準備、グループワーク</li> <li>13. ロングディベート演習 時間管理、プレゼンの重要性について学ぶ</li> <li>14. ロングディベート演習 試合の振り返りを行い、説得力の強弱について学ぶ</li> <li>15. 総評 ディベートの効果と応用について学ぶ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： ディベート試合では、いかに有効な資料を保有しているかが重要なポイントとなります。テーマは事前に提示しますので、準備のために必ず関連資料を集めてください。（学習時間：3時間）</p> <p>授業後学習： ディベートの経験は、日々の生活に活かすことで初めて自分のスキルとなっていきます。演習やグループワークを通じて学んだコミュニケーションの具体的な方法について、日常生活で実践してみてください。（学習時間：1時間）</p>						
授業方法	ディベート試合、ゲーム、ディスカッションなど演習中心ですので、積極的な参加を期待します。						
評価基準と評価方法	<p>筆記試験は実施しない</p> <p>授業態度 【30%】 演習評価 【40%】 提出物評価 【30%】 で評価します。</p>						
履修上の注意	演習中心の授業ですので、休まずに出席してください。やむを得ず欠席する場合は、できる限り事前に連絡してください。ディベート演習では自分の役割について責任をもって担当してください。						



教科書	都度プリントなどを配布しますので、各自ファイリングして持参してください。
参考書	授業中に紹介します。

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	延原 由佳					科目ナンバ-	Z32040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ディベートという議論の方法を習得します。ディベートの実践を通じて、自身の考えを主張しつつ他者と議論を噛み合わせるために、いかに相手の主張に耳を傾けるか、その重要性を認識します。						
授業の概要	「人間は皆同じだ」と考えている人々の間で意見の対立が生じると、人は動揺し、その対立を異常事態として捉えてしまいます。一方で「人間は皆異なる」と考えている人々の間では、意見の対立が生じても、それは当然のことであり、その違いをどのように克服していくかに力が注がれます。ディベートは、対立する二種類の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者によって判定するスタイルのコミュニケーションです。ディベートの演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけ、説得力のアップを図ります。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 的確な日本語を用いて円滑なコミュニケーションを図ることができる。【汎用性技能】</li> <li>・ 相手が主張することを正確に理解し、自分の主張をわかりやすく自信をもって説明できる。【汎用的技能】</li> <li>・ 立場や意見の異なる相手とも論理的に話し合あうことができる。【汎用性技能】</li> <li>・ 入社試験や採用試験で取り上げられがちな様々なテーマについて、興味をもって論じることができる。【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション ディベートの重要性とデメリットを学び、ディベートの意義を理解する</li> <li>2. ディベート概要 ディベート試合の流れやディベートのルールを学び、コミュニケーションの重要性を理解する</li> <li>3. 立論構成 立論の組み立て、哲学の意義、データの収集と活用を学ぶ</li> <li>4. マイクロディベート演習 ディベート試合の流れと試合の目的を理解する</li> <li>5. 尋問・反駁 尋問・反駁の手法を学び、議論の流れにおける尋問・反駁の意義を理解する</li> <li>6. サッカーディベート演習 的確な質疑と応答のタイミングや方法について学ぶ</li> <li>7. 論理的な思考法 論理的思考力・批判的思考力を養うための考え方について学ぶ</li> <li>8. ショートディベート演習 論題の決定、試合準備、グループワーク</li> <li>9. ショートディベート演習 試合の流れ、参加方法を学ぶ</li> <li>10. ショートディベート演習 参加試合の振り返りを行い、審判について学ぶ</li> <li>11. プレゼンテーションとディベート ディベートにおけるプレゼンの効果について学ぶ</li> <li>12. ロングディベート演習 論題の決定、試合の準備、グループワーク</li> <li>13. ロングディベート演習 時間管理、プレゼンの重要性について学ぶ</li> <li>14. ロングディベート演習 試合の振り返りを行い、説得力の強弱について学ぶ</li> <li>15. 総評 ディベートの効果と応用について学ぶ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： ディベート試合では、いかに有効な資料を保有しているかが重要なポイントとなります。テーマは事前に提示しますので、準備のために必ず関連資料を集めてください。（学習時間：3時間）</p> <p>授業後学習： ディベートの経験は、日々の生活に活かすことで初めて自分のスキルとなっていきます。演習やグループワークを通じて学んだコミュニケーションの具体的な方法について、日常生活で実践してみてください。（学習時間：1時間）</p>						
授業方法	ディベート試合、ゲーム、ディスカッションなど演習中心ですので、積極的な参加を期待します。						
評価基準と評価方法	<p>筆記試験は実施しない</p> <p>授業態度 【30%】 演習評価 【40%】 提出物評価 【30%】 で評価します。</p>						
履修上の注意	演習中心の授業ですので、休まずに出席してください。やむを得ず欠席する場合は、できる限り事前に連絡してください。ディベート演習では自分の役割について責任をもって担当してください。						

教科書	都度プリントなどを配布しますので、各自ファイリングして持参してください。
参考書	授業中に紹介します。

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	延原 由佳					科目ナンバ-	Z32040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ディベートという議論の方法を習得します。ディベートの実践を通じて、自身の考えを主張しつつ他者と議論を噛み合わせるために、いかに相手の主張に耳を傾けるか、その重要性を認識します。						
授業の概要	「人間は皆同じだ」と考えている人々の間で意見の対立が生じると、人は動揺し、その対立を異常事態として捉えてしまいます。一方で「人間は皆異なる」と考えている人々の間では、意見の対立が生じても、それは当然のことであり、その違いをどのように克服していくかに力が注がれます。ディベートは、対立する二種類の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者によって判定するスタイルのコミュニケーションです。ディベートの演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけ、説得力のアップを図ります。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 的確な日本語を用いて円滑なコミュニケーションを図ることができる。【汎用性技能】</li> <li>・ 相手が主張することを正確に理解し、自分の主張をわかりやすく自信をもって説明できる。【汎用的技能】</li> <li>・ 立場や意見の異なる相手とも論理的に話し合あうことができる。【汎用性技能】</li> <li>・ 入社試験や採用試験で取り上げられがちな様々なテーマについて、興味をもって論じることができる。【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション ディベートの重要性とデメリットを学び、ディベートの意義を理解する</li> <li>2. ディベート概要 ディベート試合の流れやディベートのルールを学び、コミュニケーションの重要性を理解する</li> <li>3. 立論構成 立論の組み立て、哲学の意義、データの収集と活用を学ぶ</li> <li>4. マイクロディベート演習 ディベート試合の流れと試合の目的を理解する</li> <li>5. 尋問・反駁 尋問・反駁の手法を学び、議論の流れにおける尋問・反駁の意義を理解する</li> <li>6. サッカーディベート演習 的確な質疑と応答のタイミングや方法について学ぶ</li> <li>7. 論理的な思考法 論理的思考力・批判的思考力を養うための考え方について学ぶ</li> <li>8. ショートディベート演習 論題の決定、試合準備、グループワーク</li> <li>9. ショートディベート演習 試合の流れ、参加方法を学ぶ</li> <li>10. ショートディベート演習 参加試合の振り返りを行い、審判について学ぶ</li> <li>11. プレゼンテーションとディベート ディベートにおけるプレゼンの効果について学ぶ</li> <li>12. ロングディベート演習 論題の決定、試合の準備、グループワーク</li> <li>13. ロングディベート演習 時間管理、プレゼンの重要性について学ぶ</li> <li>14. ロングディベート演習 試合の振り返りを行い、説得力の強弱について学ぶ</li> <li>15. 総評 ディベートの効果と応用について学ぶ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： ディベート試合では、いかに有効な資料を保有しているかが重要なポイントとなります。テーマは事前に提示しますので、準備のために必ず関連資料を集めてください。（学習時間：3時間）</p> <p>授業後学習： ディベートの経験は、日々の生活に活かすことで初めて自分のスキルとなっていきます。演習やグループワークを通じて学んだコミュニケーションの具体的な方法について、日常生活で実践してみてください。（学習時間：1時間）</p>						
授業方法	ディベート試合、ゲーム、ディスカッションなど演習中心ですので、積極的な参加を期待します。						
評価基準と評価方法	<p>筆記試験は実施しない</p> <p>授業態度 【30%】 演習評価 【40%】 提出物評価 【30%】 で評価します。</p>						
履修上の注意	演習中心の授業ですので、休まずに出席してください。やむを得ず欠席する場合は、できる限り事前に連絡してください。ディベート演習では自分の役割について責任をもって担当してください。						

教科書	都度プリントなどを配布しますので、各自ファイリングして持参してください。
参考書	授業中に紹介します。

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	ディベート演習II						
担当教員	延原 由佳					科目ナンバ-	Z32050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	各々の個性を活かした「説得力」を高めるとともに、「客観的な判断力」、「相手の考えを受け入れることのできる寛容さ」を養うことを目指します。またディベート演習を通じて習得できるプレゼンテーション、コミュニケーションスキルは、就職活動、ビジネス活動、思考・分析、自己表現の根幹となります。						
授業の概要	ビジネスシーンでも日常生活においても、対立する事態を客観的に捉え、それぞれの立場を踏まえてオープンに議論することは、現実の問題や課題を検証・解決するために有効な手段です。更に、自らの主張を他人に理解・納得してもらうためには、説得力を養うことが欠かせません。ディベート演習を繰り返すことで、社会人として必須である「わかりやすく自分の考えを述べ、相手の話を真剣に聞き取り、粘り強く議論できる能力」を養うことができます。演習を通じて自分自身で体得したコミュニケーションスキルは、就職活動やビジネス活動における論理的思考力や自己表現力をアピールする大事な礎となります。実践を通じて我々の生活になぜディベートが必要なのかを探求していきます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個性を活かしながら、幅広いシーンで有効な説得力を身につける。【汎用的技能】</li> <li>・ 自身の考えを解りやすく他者に表現できる。【汎用的技能】</li> <li>・ 他者の意見や立場を尊重した上で論じることができる。【知識・理解】</li> <li>・ 情報を取捨選択し、客観的に分析した上で仮説を立てることができる。【態度・志向性】</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ディベート概説 ディベートの概要や意義、立論、尋問、反駁のポイントについて学ぶ</li> <li>2. 模擬ディベート演習 論理的な説明、客観的な思考について学ぶ</li> <li>3. ショートディベート演習 試合準備、グループワーク</li> <li>4. ショートディベート演習 試合の進め方、参加の方法について学ぶ</li> <li>5. ショートディベート演習3 試合の振り返りを行い、審判について学ぶ</li> <li>6. 説得力と論理的思考 説得の類型を理解し、現代の我々が受け入れている行動哲学・思想は何かを考える</li> <li>7. 価値論題ディベート演習 論題決定、試合準備、グループワーク</li> <li>8. 価値論題ディベート演習 価値論題における立論構築について学ぶ</li> <li>9. 価値論題ディベート演習 試合の振り返りを行い、価値を問うことの意味を学ぶ</li> <li>10. ディベートにおけるプレゼンテーション ノンバーバルコミュニケーションや視覚的効果の重要性について学ぶ</li> <li>11. ロングディベート演習 試合準備 グループワーク</li> <li>12. ロングディベート演習2 ディベート試合を通じて「わかりやすく主張する・主張に説得力をもたせる」ことを学ぶ</li> <li>13. ロングディベート演習3 ディベート試合を通じて「相手の議論に最大限に耳を傾ける」ことを学ぶ</li> <li>14. ロングディベート演習4 ディベート試合を通じて「個性を活かした説得を行う」ことを学ぶ</li> <li>15. 総評 ディベートの活用</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： ディベート試合では、いかに有効な資料を収集しているかが重要なポイントとなります。テーマは事前に提示しますので、準備のために必ず関連する資料を集めてください。（学習時間：3時間）</p> <p>授業後学習： ディベートの経験は、日々の生活に活かすことで初めて自分のスキルとなっていきます。演習やグループワークを通じて学んだコミュニケーションの具体的な方法について、日常生活で実践してみてください。（学習時間：1時間）</p>						
授業方法	ディベート試合、ゲーム、ディスカッションなど演習中心ですので、積極的な参加を期待します。						
評価基準と評価方法	<p>筆記試験は実施しない</p> <p>授業態度 【30%】 演習評価 【40%】 提出物評価 【30%】で評価します。</p>						

履修上の注意	演習中心の授業なので、休まずに出席してください。 やむを得ず欠席する場合は、できる限り事前に連絡してください。 「試合」では自分の役割について責任をもって担当してください。
教科書	都度プリントなどを配布しますので、各自ファイリングして持参してください。
参考書	授業中に紹介します。